

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

## お盆休みでもよろいを脱いではいけない (P2)

チーフカスタマーディーラー  
井口 慶一

今週のドル円予想レンジ **104.00 ~ 106.50**

### りそなWEEKLY COLUMN

## やっぱり金がいい～高騰する金相場の行方 (P3)

りそな銀行 総合資金部  
高橋 直樹

- 「金の斧」は「鉄の斧」より欲しいもの？
- 足元の金相場はFRBを反映して2013年以来の高値水準
- 金価格は2011年あたりから白金価格を逆転している

2019/8/13

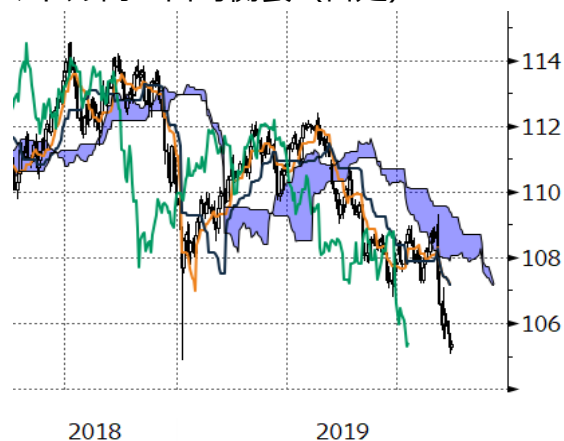
# りそな外為レポート

## お盆休みでもよろいを脱いではいけない

今週のドル円予想レンジ 104.00 ~ 106.50

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

### ◆ドル円一目均衡表 (日足)



### ◆為替相場のすすめ

意図的に通貨を切り下げているとして米財務省が中国を「為替操作国」に指定し、貿易戦争の激化懸念からリスクオフの動きが強まっている。また、先週はニュージーランド、インド、タイ、フィリピンなどの国々が相次いで利下げを決定し、金利引き下げ競争が本格化。FRBも7月末に0.25%の利下げを実施しているが、トランプ大統領は不満を隠さず「タラタラしてんじゃねーよ」と言わんばかりにFRBを「無能」呼ばわりして連日追加利下げを強く要求している。米金利先物市場は年内2回以上の利下げを織り込み、米債利回りは低水準で推移中。さらに中国当局が人民元安を容認しているとの見方がある中、トランプ大統領は「(元安は) 為替操作だ。FRBよ、聞いているか?」とドル安誘導の催促とも取れるツイートをし、通貨安競争もスタートしそうな状況。今週もドル円は不安定な地合いの継続が見込まれ、お盆休みでも我々は「よろいを脱ぐ」ことは出来なそう。再び株高の「おもてなし」を受けられるのは、貿易戦争に改善の兆しが顕れた時だろう。(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

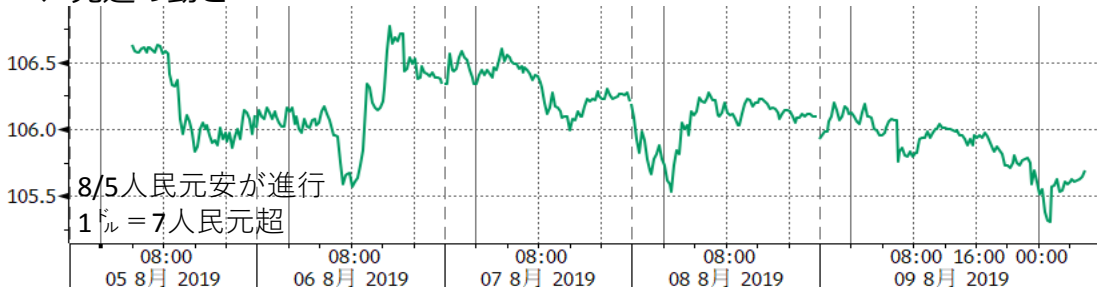
### ◆今週の日程

13日 (火) 米 7月CPI	15日 (木) 米 8月フィラデルフィア連銀製造業指数
14日 (水) 日 6月機械受注	15日 (木) 米 7月小売売上高
14日 (水) 中 7月生産・小売・投資	15日 (木) 米 7月鉱工業生産
15日 (木) 米 8月NY連銀製造業景気指数	16日 (金) 米 8月ミシガン大消費者信頼感指数

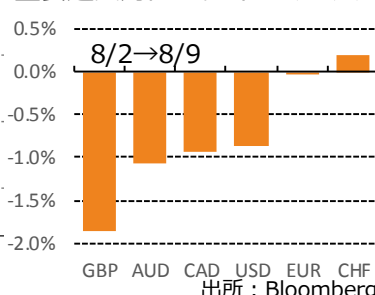
◆ 今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 12日(月) 105.30円 VS 16日(金)

東京							大阪			埼玉						
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	関口	蔵重	佐藤	松村	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↓	↑	↓	↓	休	↑	休	休	↓	↓	↓	↓	↓	休	↑	↑	↓

### ◆先週の動き



### 主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2019/8/13

# りそな WEEKLY COLUMN

## やっぱり金がいい～高騰する金相場の行方

- 「金の斧」は「鉄の斧」より欲しいもの？
- 足元の金相場はFRBを反映して2013年以來の高値水準
- 金価格は2011年あたりから白金価格を逆転している

### 金の斧

私には3歳の息子がいる。絵本の読み聞かせは就寝前の儀式。ももたろう、さるかに合戦、赤ずきんちゃん……、これまでいくつもの物語を楽しそうに聞き、眠りについた。ある日、読み聞かせをしたのは、「金の斧」。誰もが一度は聞いたことがある有名なイソップ物語。簡単なあらすじとしては、木こりが木を切っていたところ、手を滑らして斧を泉に落としてしまう。木こりが困っていると、泉から女神が現れ、落としたのは金の斧、銀の斧、鉄の斧どれかを問われる。正直に答えた木こりは全ての斧をもらえる。それを知った欲張りな木こりは、わざと斧を泉に落とす。同じように女神が現れるが、欲張りなきこりはウソをついたことで自分の斧も失うことになってしまう。絵本を読み終わった後、息子は納得いかなそうな表情をしていた。

- (息子) 「なんであとから出てきた(欲張りな)木こりさんはウソついたのかな？」  
 (私) 「(°Д°)ホーン」 「金の斧が欲しかったからだよ！」  
 (息子) 「どうして？」  
 (私) 「ゴールドだよ！」  
 (息子) 「どうして？」 「どうして??」 「どうして??？」  
 (私) 「どうして……って」

ちゃんとした説明もしてあげられないまま、夜は更けるのだった。

### 金の価値の源泉

このコラムをお読みの方ならば、金と言えば煌びやかな装飾品やインゴット(金塊)などを容易にイメージし、高価な貴金属という共通認識で異論はないだろう。金の輝きは古代から人々を魅了し、時の支配者は金を好み、金を持つことは権力の象徴となった。また、普遍性や加工の容易さから、金は物々交換によって経済活動が行われていた時代から物の対価として取引をされた。銀も金同様に高価な金属であるが、採掘量が比較的多いため、価格は金に遠く及ばない。

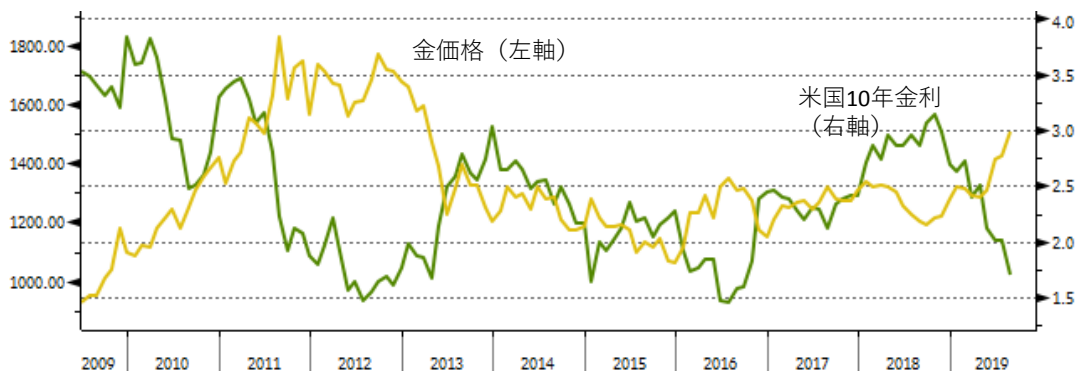


2019/8/13

# りそな WEEKLY COLUMN

## マーケットにおける 金相場

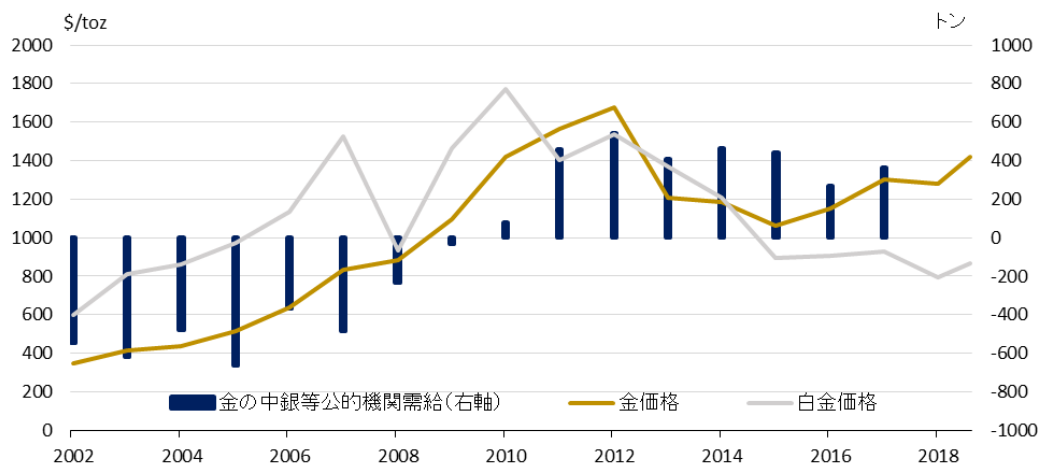
現在、金相場は2013年以来の高値水準となっている。これは利下げ方向へと舵を切ろうとしているFRBの政策影響が大きい。金相場の変動要因として、①米国の金利動向のほか、②物価動向、③通貨（米ドル）の逃避先、④地政学的リスク（有事の金）、⑤中央銀行の売買動向、等が挙げられる。金は債券などと異なり、インカムゲインを得られない。そのため、米金利が上昇すると価格は低下しやすく、金利低下局面では価格は上昇しやすい。FRBの緩和的な政策スタンスは今後も続くと思われる、金相場はしっかりとした動きとなる可能性が高い。



## 金価格は2011年あたり から白金を逆転

中央銀行の売買動向も支援材料だ。現在、金が白金（プラチナ）よりも単価が高いことをご存じだろうか。採掘量が少なく希少性の高い白金は金の倍近い価格を付けたこともあったが、2011年あたりから逆転現象が見られはじめた。直近3年でその差は明確に拡大しているが、理由の一つと考えられるのが、中央銀行の売買動向である。次頁のグラフが示す通り、2010年度頃から、世界の中央銀行は金の売り手から買い手へと変化している。中央銀行が金を保有する目的の1つが、外貨準備におけるリスクの分散。先進国通貨、とりわけ米ドルとの逆相関が強い金は分散効果が高い。こうした動きはリーマンショック以降、先進国（米国）に対するスタンス（信認）を世界の中央銀行が変化させた証なのかもしれない。経済・政治（地政学的リスク）・金融市場は今も高い不確実性を内包している。金融危機などに影響を受けない無国籍通貨である金の保有を増加させている背景にそうした意図があるのではないかと推察される。

# りそな WEEKLY COLUMN



## きんたろう？

「金の斧」の時のリベンジとばかりに、本寄稿にあたって調べた“金の価値”について息子（3歳）に教えたが、これまでにないほどの無関心ぶりだったのは言うまでもない……。

機嫌を直してもらおうべく、なんでも絵本を読んであげるからと言うと、息子は喜んで本棚に走り出した。そして、「これ！」と持ってきたのは……

「“きん”たろう！？」

少しは響いたのだろうか？

